

2021年3月15日(月)

「みんなで作り共有する混雑状況データ活用プロジェクト」の開始

「持続可能な人流の疎密等のデータ活用協議会」(会長：坂村 健 INIAD東洋大学情報連携学部学部長、以下「本協議会」とします)は、一人一人が混雑情報を自由に発信し活用できる、オープンなプラットフォーム(図1参照)を構築する「みんなで作り共有する混雑状況データ活用プロジェクト」を開始し、クラウドファンディングによる資金調達を開始しました。

みんなで作り共有する混雑状況データ活用プロジェクトは、一人一人が混雑情報を自由に発信し活用するための、一般利用者向けアプリを構築することを目指しており、本協議会では混雑状況の発信地域の拡大を目指して、協力組織の拡充を行っています。また、計測していることを告知するパネル(図2参照)等の整備も進めています。

この計測地域の一般拡大のために、クラウドファンディングによるオープンな募集を開始しました。クラウドファンディングに参加いただいた個人や企業は、混雑情報センシングアプリや一次加工後の混雑情報データを、先行して利用できます。

現在も、携帯位置データなどを活用した多くの混雑情報が報道等で利用されていますが、対象範囲が広くまた時間がたったデータなので「今あそこが混んでいるのか」、さらには「これから混むか」といった確認などには利用しにくいものになっています。これは、誰もが無料かつオープンに活用でき、リアルタイムに状況を把握できる混雑状況データや、それを共有するインフラが確立されていないためです。

みんなで作り共有する混雑状況データ活用プロジェクトではこのような問題意識から、一人ひとりが無料で自由に活用できるようなオープンデータプラットフォームを構築し、一人ひとりが創り上げる新しいデジタル社会インフラに参加できる環境を整備することを目指しています。

記

【協議会Webサイト】 <https://www.no-sanmitsu.org/>

【クラウドファンディングWebサイト】 <https://www.securite.jp/project/no-sanmitsu>

本件に関するお問い合わせ

持続可能な人流の疎密等のデータ活用協議会事務局(YRPユビキタス・ネットワーキング研究所内)
担当: 新堂 E-mail: ssd-office@ubin.jp Tel: 046-847-5220

(次ページに続く)

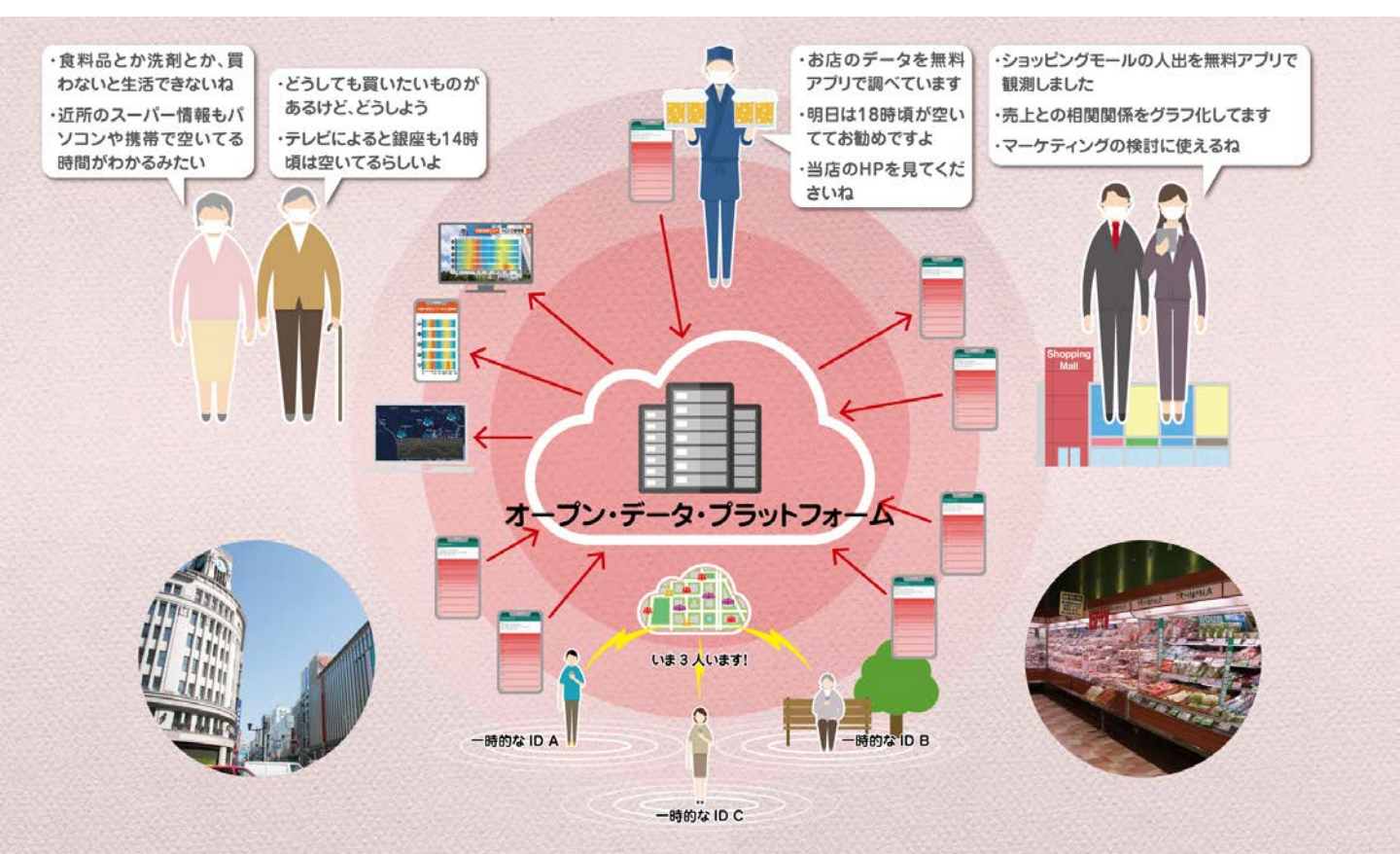


図1：混雑状況データを活用するオープンデータプラットフォームのイメージ

No!三密

プロジェクト

持続可能な人流の疎密等のデータ活用協議会

お出かけの前に、地域の
 混雑状況をチェックしよう!

COCOA（新型コロナウイルス接触確認アプリ）の
 発信する電波を観測し、混雑状況を計測しています。

<< 個人情報の収集等はありません >>

www.no-sanmitsu.org

図2：混雑状況計測箇所に設置し、計測していることを告知するパネル